

2017 年家具部門：景気回復の兆し

FLA EVENTI 社（ミラノサローネの運営会社）の調べによると、イタリア家具製造部門は、2015 年から回復の兆候を見せ始め、2017 年も 267 億ユーロ（前年比 1.5%増）を記録した。

昨年のお家庭での消費の増加によって、家具などの耐久財の消費の成長が見られた。（170 億ユーロ / 2%増）

継続的な家具と改装税優遇措置により、更に需要が高まった。住居の販売（助成金支給）やリノベーションが伸び、不動産市場の動向に変化をもたらした。建設部門で新築はまだ低迷しているが、金融部門の家族ローン再開により需要の高まりを見せている。

また、輸出も 141 億ユーロの純売上高を達成し、1.7%の成長を記録した。

2017 年の 10 月までの 10 ヶ月間の分析によると、イタリア家具の輸出先はフランスが 1 位（18 億ユーロ/5.4%増）、2 位がドイツ（130 億ユーロ/0.8%増）、3 位が英国（10 億ユーロ/1.9%増）、4 位がアメリカ（9 億 7500 万ユーロ/5.4%増）となった。中国市場にも好調な成長が見られ、4 億 800 万ユーロ/38.5%増を記録した。

家具部門の伸びは、総売上高 413 億ユーロ/前年比 1.4%増となったイタリア木工家具製造システムの伸びも裏付けた。

キッチンの生産は、2017 年にわずかに減少したが（21 億 6000 万ユーロ/ 2%減）、輸出は 1 億 7,200 万ユーロと 1%増加を記録した。

バスルーム部門では、総生産高が 26 億 7000 万ユーロ（0.8%増）、輸出は 12 億 7000 万ユーロ（1%増）を記録した。